固執し、一方日鐵側亦無條件合同を主張して相譲らず、面目に捉れて進渉容易ならずと見えたので、兩組合委員より更に二名宛の小委員を擧げて協議することとなり漸やく活路を見出した、即ち日鐵側より主事谷口友太郎同中央執行委員篠原道、協進組合より※り誓記長原田國定同常務理事山田政雄の四名を出したのである。

而して七月九日夜右小委員會を開催し、双方一切の希望條件感情問題等を捨て、大局的合同をなす事に意見の一致を見たるも、協進組合は最後的に日鐵從業員組合の綱領を日本主義的字句に修正すべきを主張し大体の諒解が成つたのである。

○第三回合同委員會

七月十日午後六時日鐵從業員組合事務所に開催、谷口日鐵主事より小委員會の經過を報告し、日鐵綱領一部修正に依り大

財團法人 協調會福岡出張所



体無條件合同に達する旨述べて一之れを承認することとなつたのである。

現在日鐵從業員組合綱領中第三項の

我等は國情に即し健實なる勞働組合主義に依て産業に協力し合理的なる社會進化を促進して健全なる新社會の建設を期すとあるを次の如く修正せんとするのである。即ち

我等は國情に即し健實なる勞働組合の組織と統制力を以て産業に協力し合理的なる社會進化を促進し健全なる新社會の建設を期す。

かくて漸やく難關を突破したので遂に合同大會を開催する爲兩組合共夫々組合機關に諮り其の正式承認を求め、合同大會準備會を開催するを申合せたのである。

○合同大會準備委員會

財團法人 協調會福岡出張所